

令和元年度第2回長浜市しょうがい福祉推進協議会の書面会議における ご意見

(1) やさしいまちづくり「あたたか」

- ・市内の施設でユニバーサルデザイン化、バリアフリー化が進んでいると思いますが、駐
 駐車場・エレベーターの広さの確保、スロープの勾配の検討も必要だと思います。
- ・しょうがいのある人の自宅の住宅改修について、必要性の高い人に迅速に工事が施行さ
 れるようになると思います。
- ・あらゆる相談窓口をもっと市民に周知してもらえるように、出前講座、研修等で情報を
 市民へ発信してほしい。
- ・長浜米原自立支援協議会の取り組み内容について、周知が十分とは言えない。

(2) 地域生活の支援「あんしん」

- ・福祉現場に働いてもらう職員の確保育成は喫緊の課題です。確保に成功されている事業
 所もあるようですので、成功体験を聞くのも大切です。湖北全体で集まって、湖北圏域
 の福祉人材の確保育成に向けての協議を進められるのも必要です。
- ・しょうがい者、家族が気軽に相談できる分かりやすい相談窓口の必要性。
- ・福祉の人材の確保については、すぐに結果が出るものではないが、取り組みを考えてい
 かなければと感じる。
- ・介護保険認定の対象とならない人が、しょうがいを持った時に利用可能なサービスの充
 実を図ることが重要だと思います。
- ・資料5：「同性介護を行うための女性職員の確保」とあるが、「同性介護を行うための入
 所施設における夜勤ができる職員の確保」ではないか。
- ・福祉人材が不足している、特に計画相談専門員が不足している。

(3) 医療・保健・福祉の連携「すこやか」

- ・医療的ケアの必要な方及びしょうがい児の緊急時の受入れ先の充実は早急に図る必要
 があると思います。(又、夜間の医療処置の必要性も含めて)

- ・各自治体で避難時の介護が必要な方の情報がわからない。
- ・行政組織について、縦割りのイメージが強い。包括的に制度の調整や支援を行う部署があれば連携しやすい。

(4) 子どもの発達・教育支援「はぐくむ」

- ・発達障害を認める子どもたちは、集団生活に慣れるまでに大変時間がかかります。特に登校できない児童のための対策は急がれます。個別に児童の思いを聞き取りその対応を進めていくためのフリースクールなどを、専門職も入れた仕組みとしてしっかりと構築していく必要があります。
- ・教育部門と福祉部門の連携が進むとよい。しょうがい者自立支援協議会でも児童について検討する場が発達しょうがい者支援部会しかないが、そこからでも進めていきたい。
- ・資料4 庁内取組状況ではおおむねB評価ということになっているが、資料2 意見調査ではたとえばインクルーシブ教育への理解啓発は進んでいないという回答が多く、かなりのズレがある。というか、そのズレが示していること自体が重要なのだと思う。何がインクルーシブな状態なのかについての理解が進んでいないからB評価になっている（が実際には現状はそれほど評価できない）というのが、調査に答えた多くの団体の認識なのだと思います。
- ・療育の充実と保護者への支援（情報提供、精神的支援）の充実を図ることが重要だと思います。
- ・学校等の教育支援に行政の取組必要。

(5) 活動の充実「いきがい」

- ・(4) 子どもの発達・教育支援「はぐくむ」と同じで、一般就労にせよ余暇活動にせよ、資料4 庁内状況の認識と、資料2 意見調査ではかなりのズレがある。現状は充実とは言い難いと多くの団体が認識しているということと、取り組んではいるけれども成果が十分出ていないという、両面があるのだと思いますが。
- ・余暇活動の支援、スポーツや趣味、娯楽等の情報提供、各会場への交通手段の確保も更に充実を図ることが重要だと思います。
- ・福祉バスが無い。介護タクシーが少ない。

- ・福祉センターを作り、集える場所、ふれあいの手段を。
- ・余暇活動に参加するにも、サービスの空き枠の不足や移動手段が限られていることから参加しにくい。

(6) その他

- ・しょうがいのない人が、しょうがいのある人への理解を深められるよう、小・中・高校生の福祉施設への見学や、しょうがいのある人との交流が持てる場を設けていくことも良いのではないかと思います。
- ・市民に働きかけ、人材育成に力を入れてほしい。